

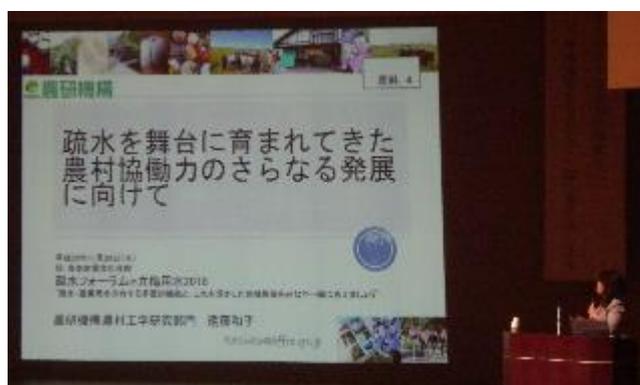
水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成30年12月5日
タイトル	疏水フォーラムin立梅用水2018へ参加しました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

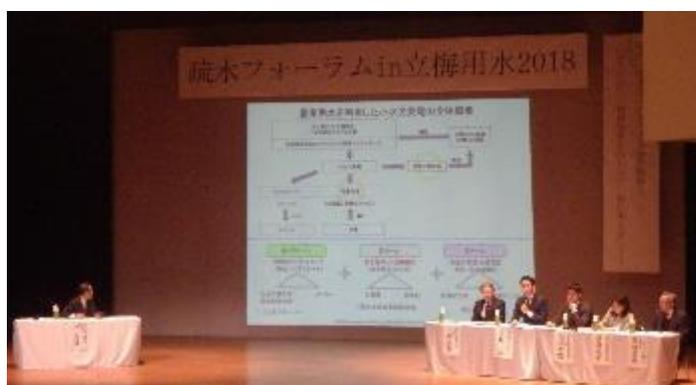
平成30年11月29、30日にかけて三重県多気町において「疏水フォーラムin立梅用水2018」が開催され参加しました。

このフォーラムは、疏水は農業用水だけでなく生活用水などに利用し地域住民の憩いの場や動植物の生育空間となるなど多面的機能を発揮しており、農業者のみならず国民共有の貴重な財産であることから広く国民に周知し疏水を将来に引き継いでいくことができるよう情報交換、情報発信等を行うことを目的に開催されています。

29日は、三重県多気町の多気町民文化会館で開催され、日本全国の水土里ネットから約500人が参加し、基調講演、講演、事例報告、パネルディスカッションが行われました。



講演を興味深くお聞きしました！



疏水の多様な可能性についてディスカッション！

基調講演では「疏水の歴史と疏水の持つ機能や重要性」を、講演では「疏水を舞台に育まれてきた農村協働力のさらなる発展に向けて」と題して講演されました。

疏水は、弥生時代の稲作を始めたころから綿々と受け継がれ総延長は地球10周にも相当するもので、単に食料生産に必要なかんがい用水だけでなく生活用水、防火用水、景観保全、生態系保全、親水空間の確保など古くから地域用水として多面的機能を発揮してきたことをあげられ、疏水をはじめ多くの農業用水利施設が耐用年数を超過して使用されており、今後、農業構造や水管理体制の変化に対応するため営農の要請に応えた施設機能の再構築が必要とされていることや、疏水を中心に学校など地域全体を巻き込んだ「勢和地域」の事例では、新しく農村協働力が育まれた様子をお聞きしました。

講演やパネルディスカッションをお聞きし感じたことは、水土里ネット立梅用水で様々な活動をされていることは、水土里ネット福山の中でもしていることが多くあることです。一つひとつの活動を結び付けて大きな活動にすることでより大きな成果となり、新たな取り組みに挑戦することができるのだと感じました。

また、日本の河川は世界に比べ勾配が急で洪水になると被害が大きいが疏水があることにより水の流れを緩やかにしているのではないかと話され、平成30年7月の西日本豪雨災害で河川に土砂や木が堆積し河川敷が破損している中、水土里ネット福山が管理する疏水では水生生物が穏やかに生息していることを確認し安心したことを思い出しました。

30日は、水土里ネット立梅用水を現地視察しました。平成29年度疏水研修会に参加したおり事例報告で「立梅用水の多面的機能の活用と町づくり」として9つの地域用水としての多面的機能をあげられました。大変興味深くお聞きし、実際に現地研修できることを楽しみにしておりました。



小水力発電の電気で動く電気自動車を試乗しました。
立梅用水の取水井堰では水がとてもきれいでした。
200年前私財を投じて立梅用水を通水させた西村彦
左衛門生家で臨場感あふれる紙芝居を見て、農業法人
せいわの里「まめや」の料理をいただきました。

9つの機能とは、①防火用水、②小水力発電用水、③生活維持用水、④観光・地域活性化用水、⑤地域教育・福祉用水、⑥農村環境保全用水、⑦生態系保全用水、⑧歴史的遺産保全用水、⑨農村協働力・自治形成です。

この一つひとつを長い年月をかけて実施され、一般社団法人の起ち上げ、大学やメーカーと連携して小水力発電を実用化、その電力を利用した小型電気自動車使って防災や獣害パトロールや用水管理、高齢者の買い物支援や見守りをしておられました。農業関係者だけではなく、学校や地域住民を巻き込み地域をあげての大きな取り組みとなって新たな雇用を生むなど、みなさんが活き活きと活動しておられる様子が伝わりました。

今回の研修では、水土里ネットが様々なことに取り組むことで、組合員のみならず地域にも貢献することができることを学びました。水土里ネット福山でも、地域に貢献できるよう、今後の取り組みに活かしていきたいと思いました。



西村翁像の前で。広島県からは3人が参加しました！